



## 日本専門医機構皮膚科領域 専門医研修の記録（研修カリキュラム制専攻医用）

2020年4月版

研修基幹施設名	
専攻医氏名	
研修プログラム開始年 月日（西暦）	
研修プログラム終了年 月日（西暦）	

### 〈注意事項〉

- ① 登録(所属)している研修基幹施設を異動する際は、当該研修基幹施設での研修は終了となる。
- ② 異動の際は、「専門医研修の記録」の『研修プログラム終了年月日』に異動日を記入し、その時点での各種経験記録の確認を指導医より得ること。
- ③ 異動後の研修については新たな「専門医研修の記録」を使用し、研修を再開すること。移動前に経験していない各種経験記録を中心に研修を行うこと。
- ④ なお、講習会や業績などの単位は日本皮膚科学会会員マイページにおける「前実績」にて登録・管理を行うこと。
- ⑤ 自身の研修歴の管理は「研修期間の管理表」を使用すること。
- ⑥ 本紙は機構認定専門医制度で「研修カリキュラム制」を選択したものが自身の研修管理を行うために使用するものである。そのため、該当する者以外の利用は不要となる。

# 研修カリキュラム制専攻医による「研修の記録」

## 目次

### A. 形成的評価票

#### 個別目標1 専門知識

- [1. 皮膚科学総論](#)
- [2. 皮膚科学各論\(経験記録\)](#)

#### 個別目標2 診断技能

- [1. 皮膚科診断学](#)
- [2. 皮膚病理学](#)
- [3. 皮膚科的検査法\(経験記録\)](#)

#### 個別目標3 治療技能

- [1. 全身療法](#)
- [2. 局所療法](#)
- [3. スキンケア](#)
- [4. 理学療法\(経験記録\)](#)
- [5. 手術療法\(経験記録\)](#)

#### 個別目標4 医療人として必要な倫理性、社会性等の事項

- [1. 医の倫理](#)
- [2. 医療安全と法令遵守](#)
- [3. 医療経済](#)
- [4. 患者医師関係とインフォームドコンセント](#)
- [5. チーム医療](#)
- [6. 健康管理・予防医学](#)

#### 個別目標5 学問的姿勢

### [X. 研修期間の管理表](#)

# A. 形成的評価票

## 個別目標1 専門知識 1. 皮膚科学総論（達成度評価）

一般目標：皮膚の正常構造、機能および病態生理の知識に基づき、皮膚疾患の診断上必要な一般的知識を修得することを目標とする。

A：十分目標に達した B：ほぼ目標に達した C：努力途上 D：未着手

研修項目	評価時期	自己評価	指導医評価	指導医確認日
<b>1. 構造と機能</b> 皮膚（および粘膜）の構造を分子（遺伝子）・細胞・組織・肉眼の各レベルにて機能と関連させて理解するとともに、部位による形態の差異（例：皮膚紋理、角層、付属器、皮下脂肪の量など）、および加齢（成長と老化）や環境（例：紫外線暴露など）による変化を理解して、人体最外表器官としての重要性を認識する。	研修修了時評価			
<b>2. 病態生理</b> 細胞生物学・分子生物学・生理学・生化学・免疫アレルギー学・光生物学・微生物学などの基礎知識の上に立って、皮膚科医にとって重要な皮膚の病態生理を認識する。	研修修了時評価			

# A. 形成的評価票

## 個別目標1 専門知識 2. 皮膚科学各論（経験記録）

入院または外来で実際に診察を担当した症例を記録し、指導医の確認を受けることとする。経験病名が記載されている欄は必須疾患である。経験病名欄が空欄の疾患群はカリキュラムにある疾患群の病名の中から任意の1例を記載すること。一度経験した研修項目は記録しなくて良い。研修期間中に90%以上の項目（32項目以上）を経験することとする。

※指導医確認欄は指導医本人に自署いただいでください。

研修項目	経験病名	患者年代	経験年月 (西暦)	研修施設	指導医確認	指導医確認日
例) 蕁麻疹	特発性慢性蕁麻疹	40歳代	20xx年5月	〇〇大学	皮膚 太郎	20xx年3月31日
1. 皮膚炎・湿疹	i. 接触皮膚炎					
	ii. アトピー性皮膚炎					
	iii. 脂漏性皮膚炎					
2. 紅皮症						
3. 蕁麻疹						
4. 痒疹						
5. 掻痒症						
6. 薬疹						
7. 血管・リンパ管の疾患						
8. 紅斑症						
9. 角化症						
10. 炎症性角化症と膿疱症						
11. 水疱症						
12. 膠原病および類症						
13. 代謝異常症						
14. 軟部組織（皮下脂肪組織・筋肉）疾患						
15. 肉芽腫症						
16. 太陽光線による皮膚障害						
17. 物理・化学的皮膚障害						

研修項目	経験病名	患者年代	経験年月 (西暦)	研修施設	指導医確認	指導医確認日
18. 皮膚潰瘍						
19. 褥瘡						
20. 色素異常症						
21. 母斑と母斑症						
22. その他の遺伝性皮膚疾患						
23. 上皮性腫瘍・神経系腫瘍						
24. 間葉系腫瘍						
25. リンパ腫と類症						
26. メラノサイト系腫瘍						
27. ウイルス感染症						
28. 細菌感染症						
29. 真菌感染症						
30. 抗酸菌感染症						
31. 性感染症 (STI)						
32. 動物性皮膚症・寄生虫症						
33. 付属器疾患 (汗器官・脂腺・毛髪・爪)						
34. 粘膜疾患						
35. 全身疾患に伴う皮膚症状						

# A. 形成的評価票

個別目標2 診断技能 1. 皮膚科診断学 / 2. 皮膚病理学

A: 十分目標に達した B: ほぼ目標に達した C: 努力途上 D: 未着手

研修項目	年次	自己評価	指導医評価	指導医 確認日
1. 皮膚科診断学 皮膚疾患の診断を正確に行うために必要な医療面接技能、症候学、発疹学を修得する。	研修 修了 時 評価			
2. 皮膚病理学 皮膚疾患の診断を正確に行うために必要な皮膚病理組織学を修得する。	研修 修了 時 評価			

# A. 形成的評価票

個別目標2 診断技能 3. 皮膚科的検査法（経験記録）

※指導医確認欄は指導医本人に自署いただいでください。

項目	経験症例の病名	患者年代	経験年月 (西暦)	研修施設	指導医確認	指導医確認日
例) 貼布試験	全身性接触皮膚炎	60歳代	20xx年5月	〇〇大学	皮膚 太郎	20xx年3月31日
1. プリックテストまたはスクラッチテスト 3例	1					
	2					
	3					
2. 貼布試験 3例	1					
	2					
	3					
3. 最少紅斑量 (MED) 測定 3例	1					
	2					
	3					
4. ダーモスコピー 10例	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
5. 皮膚生検 10例	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	6					
	7					
	8					

項目	経験症例の病名	患者年代	経験年月 (西暦)	研修施設	指導医確認	指導医確認日
	9					
	10					
6. 細胞診 (Tzanckテスト) 3例	1					
	2					
	3					
7. 真菌鏡検 3例	1					
	2					
	3					



# A. 形成的評価票

個別目標3 治療技能 1. 全身療法 / 2. 局所療法 / 3. スキンケア

A: 十分目標に達した B: ほぼ目標に達した C: 努力途上 D: 未着手

研修項目	年次	自己評価	指導医評価	指導医確認日
<b>1. 全身療法</b> 1) 全身療法を必要とする皮膚疾患について、治療法の原則を説明できる。 2) カリキュラム記載の薬剤について適応、使用法あるいは実施法、作用と副作用、薬剤相互作用、禁忌などを熟知して投与を実施できる。	研修修了時評価			
<b>2. 局所療法</b> 皮膚科研修カリキュラム記載の局所療法（外用療法、包帯法、創傷被覆材、局所注射、軟属腫摘除など）を行動目標に沿って実施あるいは熟知、説明できる。	研修修了時評価			
<b>3. スキンケア</b> 1) 健常人と各種疾患でのスキンケアの意義について熟知し、実施できる。 2) スキンケア製品に含まれる主な成分の皮膚に対する作用を知る。 3) 化粧品、各種スキンケア製品の適応と使用法を理解する	研修修了時評価			

## A. 形成的評価票

個別目標3 治療技能 4. 理学療法 / 5. 手術療法

※指導医確認欄は指導医本人に自署いただいでください。

研修項目	経験症例の病名	患者年代	経験年月 (西暦)	研修施設	指導医確認	指導医確認日	
例) 理学療法	i. 紫外線治療	全身性接触皮膚炎	60歳代	20xx年5月	〇〇大学	皮膚 太郎	20xx年3月31日
4. 理学療法	i. 紫外線治療 3例	1					
		2					
		3					
	ii. 液体窒素療法 3例	1					
		2					
		3					
5. 手術療法 執刀医あるいは第1助手	i. 皮膚良性腫瘍摘出術 5例	1					
		2					
		3					
		4					
		5					
	ii. 皮膚悪性腫瘍摘出術 3例	1					
		2					
		3					
	iii. 皮膚切開術 3例	1					
		2					
		3					
	iv. 植皮術 1例	1					

# A. 形成的評価票

個別目標4 医療人として必要な倫理性、社会性等の事項（達成度評価）

A：十分目標に達した B：ほぼ目標に達した C：努力途上 D：未着手

研修項目	年次	自己評価	指導医評価	指導医 確認日
1. 医の倫理 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、高い倫理観をもった診療を実施できる。	研修 修了時 評価			
2. 医療安全と法令遵守 患者および医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参画する。また、そのために必要な法規、規約を熟知する。	研修 修了時 評価			
3. 医療経済 我が国の健康保険制度や医療助成制度、先進医療の現状を理解し、保険診療についての正しい知識を得て、実施できる。	研修 修了時 評価			
4. 患者医師関係とインフォームドコンセント 患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を構築する。	研修 修了時 評価			
5. チーム医療 医療チームの構成員であることを理解し、他の構成員と良好なコミュニケーションを取ることができる。	研修 修了時 評価			
6. 健康管理・予防医学 皮膚科専門医として必要な健康管理、公衆衛生、精神衛生、遺伝学などについて理解し、実施できる。	研修 修了時 評価			

# A. 形成的評価票

## 個別目標5 学問的姿勢（達成度評価）

<一般目標>

患者の問題を把握し、問題対応型の思考をし、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。

A：十分目標に達した B：ほぼ目標に達した C：努力途上 D：未着手

研修項目	年次	自己評価	指導医評価	指導医 確認日
1. 担当症例をカンファレンスにて呈示し、問題点を抽出し、解決法を議論できる	研修 修了 時 評価			
2. 学会、研究会、講演会などに積極的に参加またはe-ラーニング等を受講し、最新の知識を得る	研修 修了 時 評価			
3. Evidence-based medicine (EBM)の背景、意義を理解し、それに基づいた治療方策の立て方を理解する	研修 修了 時 評価			
4. 診療ガイドラインの意義と応用法を理解する	研修 修了 時 評価			
5. 自己管理能力を身につけ生涯にわたり診療能力の向上に努める	研修 修了 時 評価			

# 研修期間の管理表

No	研修施設	施設区分 (基幹施設/連携施設/ 準連携施設)	勤務形態 (フルタイム勤務/ 非フルタイム勤務)	指導医氏名	開始年月日	終了年月日	研修単位 (ヶ月)	指導医 署名欄	指導医 確認日
例)	皮膚科学会病院(皮膚科)	基幹施設	フルタイム勤務	皮膚 太郎	2020年4月1日	2021年3月31日	12		
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
皮膚科研修期間の合計									

※枠が足りない場合、もう1枚用意し、続きの研修歴を記載すること。

<注意事項>

1. 研修終了証明書の記載と相違ないこと。相違がある場合は、その旨を明記した説明書を添付すること。
2. 研修基幹施設で最低1年間（12単位）の研修と研修基幹施設以外の連携施設等での研修を所定の期間行うこと。  
なお、連携施設等での研修期間は、所属する基幹施設によって異なるため注意すること。
3. 研修準連携施設での研修は最大24単位まで算定できる。24単位を超えるものは算定できないので注意すること。
4. 非フルタイム勤務の研修における研修期間の算定は研修カリキュラム整備基準の「12.4.研修カリキュラム制の研修単位の考え方」を参照のこと。
5. プログラム制からカリキュラム制に移行した場合、本紙にプログラム制の研修実績として算定できるものを転記すること。
6. 専門医受験申請に必要な研修期間を充当した場合、下記のプログラム統括責任者の欄に所属している統括責任者からの署名をもらうこと。

プログラム統括責任者 \_\_\_\_\_

印